



しいたけ、別府湾、高崎山の風景も絵の中に描いています。

吉岡 「南蛮渡来物語」はにぎやかな南蛮貿易のイメージで、象やクジヤク、虎、南蛮から訪れた異国の人々などを描きました。

阿部 最後の色決めも楽しかったですね。

吉岡 使える色が数色と限られていたんですが、それが逆に良かったです。

阿部 限られた色の中で組み合わせるから面白いものになりました。色合いはこれまでの自分たちの作品の中でも会心の出来だと自負しています！

デザインの注目ポイント？

吉岡 マンホール蓋の中に、絵だけではなくタイトルまで入れ込んだところですよ。

阿部 「猿酒」も「南蛮渡来物語」も豊かな大分を連想する物語のイメージです。

吉岡 「南蛮渡来物語」は自分たちの造語で、当初は「瓜生島伝説」としていました。ただ瓜生島伝説は大地震により一夜で沈んでしまう島のお話なので、このマンホール蓋がマイナスイメージになるのは避けたいなと思います。

阿部 沈んで消えてしまう瓜生島ではなく、南蛮貿易で活気あふれる瓜生島や豊後の街にスポットが当たるように「南蛮渡来物語」と名付けました。

市民のみなさんへメッセージ

吉岡 例えば美術館で一枚の真っ黒な絵画を目の前にしたとして「何これ私でも描けるよ」と通り過ぎるのではなく、「どうしてこう描いたのだろう」と立ち止まった人だけ素晴らしい発見ができてしまうことがあるんです。このマンホール蓋も、そういう見方をしてもらえたらとてもうれしいです。

大分市や下水道のことを知ってもらおう一つのきっかけとなりますように。

阿部 このデザインには、僕らが民話を読んで受け取った古来の大分人の感情や感覚が詰め込まれています。これは芸術文化を繋ぐリレーのようなものです。マンホール蓋を見て、立ち止まってくれた「誰か」がまたバトンを受け取って未来へつないでいってくれたらうれしいです。



デザインのラフ案



新 デザインマンホールをザ・キャビンカンパニーが語る！

上下水道局では5年3月に新デザインマンホールをガレリア竹町通商店街に設置しました。今回はその完成記念特集として、デザイン制作者「ザ・キャビンカンパニー」のお二人にお話を聞きました。



雨水蓋デザイン【猿酒】

高崎山で商人に助けられた猿が出てくる民話をモチーフに、猿が果実を噛んでつくる美味なお酒「猿酒」やかぼず、びわ、しいたけなどの名産が描かれている。

【ザ・キャビンカンパニー】

ともに大分県生まれ、大分市在住の阿部健太郎（左）と吉岡 紗希（右）による二人組の絵本作家／美術家

現在、大分県由布市の廃校をアトリエにして活動中。絵本制作の他にも、子ども向け教育番組「おかあさんといっしょ」しりたガエルのけちやまキャラクターデザインなどを手掛ける。令和5年第4回JPIC親子で読んでほしい絵本大賞、第28回日本絵本賞受賞。



汚水蓋デザイン【南蛮渡来物語】

大友宗麟の時代に南蛮貿易で窓口として栄えたとされる幻の島「瓜生島」の港で、船から積み下ろされる動物や渡来品、南蛮より訪れた人々の様子が描かれている。

カラーマンホール蓋を探しに行こう♪



モチーフを大分市の民話や伝説にした理由は？

吉岡 自分たちが大分市の民話を読んだときにこの絵をモチーフに描いてみたいというところから始まりました。

阿部 これから何十年と残っていくマンホール蓋のモチーフとして、昔から脈々と受け継がれて今も残る民話が入りやすいかなど。

吉岡 マンホール蓋を見た人が「これって何の絵かな？どんな物語かな？」と気になって、大分市を知ることになったのかなと思います。

デザインが出来上がるまでの話を聞かせてください

阿部 他のマンホール蓋のデザインを見ると、パソコンで描いたような線の太さが均一なデザインが多いんですが、自分たちのデザインは手描き感にこだわって、線が太かったり細かったりするようないびつな絵にしたかったんです。その手描き感あふれる線を、鋳型を製造する業者さんが丁寧に再現してくれました。原画の線よりも鋳型の線のほうが良いものになったと思います。↘

カラーマンホール蓋の設置場所などの詳細はこちら



今回掲載できなかった内容も含め、インタビュー全文はホームページに掲載しています。ぜひご覧ください



吉岡 線を途切れさせてはいけないというマンホール蓋ならではの制限もありました。線が繋がっていないと、カラーマンホール蓋の着色剤を流し込む際に隣へ流れ出てしまうからです。

他にもマンホール蓋を踏んだ際に滑らないように、絵に余白を持たせすぎずに全面的に線を入れないといけない、とか。

色々悩むこともあったけれど、制限もまた良いデザインができる一つの要素でした。

阿部 あとは、マンホール蓋は円形で色々な方向から見るので絵に正面がありません。どこから見ても美しく見えるようなデザインにしようと思いました。

吉岡 「猿酒」には、猿が果実を噛んでつくったお酒のお話ということ、いちじくなど野山の果実を描いています。大分ならではのものが、